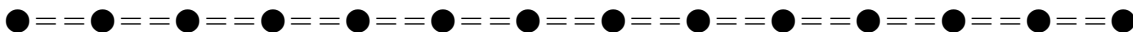


B i o T e c h T O K A I —メールマガジン 第143号—

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会



**** 《もくじ》 ****

- 1. 平成28年度「知」の集積による産学連携推進事業のうち、知的財産の技術
● 移転加速化事業及び地域産学連携支援事業
- ☆アグリビジネス創出フェア2016 in 東海 (11月28～29日)
- ☆NPO法人東海地域生物系先端技術研究会 平成28年度第3回セミナー
● (12月13日)
- 2. 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等
- ☆「知の拠点あいち重点研究プロジェクト(1期)」成果普及セミナー
● ～残留農薬の「簡単・迅速・安価」な検査技術～ (12月1日)
- 3. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
- ☆アグリビジネス創出フェア2016(東京ビッグサイト) (12月14～16日)
- ☆農林水産省等のイベント情報のURL
- 4. 競争的研究資金について
- ☆平成28年度補正予算 革新的技術開発・緊急展開事業のうち、戦略的技術
● 開発体制形成事業 (農林水産省)
- ☆平成28年度セルロースナノファイバー性能評価モデル事業
● (早期社会実装に向けた導入実証) 委託業務(二次公募) (環境省)
- ☆「研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP) ステージ3
● NexTEP-A タイプ(平成28年度・第2回)」 (JST)
- ☆産学共同実用化開発事業(NexTEP) 平成28年度一般タイプ(通常募集) (JST)
- ☆産学共同実用化開発事業(NexTEP) 平成28年度未来創造ベンチャータイプ
● (通常募集) (JST)
- ☆平成28年度中堅・中小企業への橋渡し研究開発促進事業
● (平成28年度第2次補正予算) (NEDO)
- ☆平成28年度研究開発型ベンチャー支援事業
● (企業間連携スタートアップに対する事業化支援) (NEDO)
- ☆ICTイノベーション創出チャレンジプログラム (総務省)
- ☆民間の競争的研究資金を25件掲載
- 5. 新技術情報
- ☆農林水産・食品分野の新技術の紹介(3件)

◆ 1 ◆ 平成28年度「知」の集積による産学連携推進事業のうち、知的財産の技術

移転加速化事業及び地域産学連携支援事業

☆「アグリビジネス創出フェア2016 in 東海」

―農林水産・食品産業分野における産学官連携によるマッチング促進―

「アグリビジネス創出フェア 2016 in 東海」は、農林水産省の実施する「知」の集積による産学連携推進事業のうち知的財産の技術移転加速化事業及び産学連携支援事業の一環として実施します。産学官・農商工の連携を一層効果的に推進するため、地域の活性化につながる研究開発から製品開発・事業化や技術移転、市場開拓など、新たなビジネス創出についての情報発信・技術交流を行います。更に事業化を進め、特許等の技術移転、ベンチャー企業の創出を支援する機会とします。本年度は名古屋大学協力会と共催し、講演会も開催します。

【開催日時】平成28年11月28日（月）10:00～17:00

11月29日（火）10:00～16:00

【開催場所】名古屋大学 ES総合館 ESホールおよび会議室

（名古屋市千種区不老町名古屋大学）

アクセス：地下鉄名城線 名古屋大学下車 2番出口より徒歩2分

地図がチラシの中にあります。⇒ [チラシ](#)

【内容】

(1) 開会式

(2) 基調講演 「知の拠点あいち 食の安心・安全技術開発プロジェクトの成果」

豊橋技術科学大学大学院工学研究科 教授 田中三郎氏

(3) 成果発表：研究・教育機関の研究成果、企業の研究成果

(4) 名古屋大学協力会の講演会

(5) 「知」の集積事業説明会

(6) パネル等の展示（大学・各研究機関・高校・企業等研究成果、6次産業化新製品等）

(7) 相談コーナー開設（農林水産省産学連携支援コーディネーター）

【主催】特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会／農林水産省

【共催】名古屋大学協力会

【後援】名古屋大学大学院生命農学研究科、（公社）農林水産・食品産業技術振興協会、農研機構 中央農業研究センター

【出展予定】研究機関・企業・団体等：60 ブース

【参集範囲】大学、高等学校等教育機関、国立研究開発法人、独立行政法人、公的試験研究機関、農林水産・食品関係企業、農業団体、食品関係団体、県等行政機関。
また、本フェアの展示・発表等にご関心のある方はどなたでもご参加ください。異分野のご専門の皆様も歓迎いたします。

【名古屋大学協力会の講演会（2日目）の内容】

- (1) 農業・食品産業における近赤外分光法の利活用
名古屋大学大学院生命農学研究科 土川 覚 氏
- (2) 未病バイオマーカーの研究開発と生活習慣改善を目的とした郵送検査事業
株式会社ヘルスケアシステムズ 瀧本陽介 氏
- (3) 微量血液中からのモノクローナル抗体迅速合成法
名古屋大学大学院生命農学研究科 中野秀雄 氏
- (4) 筋タンパク質を維持するための分岐鎖アミノ酸（BCAA）の機能
名古屋大学大学院生命農学研究科 下村吉治 氏

【情報交流会】1日目の17時から、名古屋大学構内にある「花の木」にて開催致します。
会費 4000 円（事前申し込み）

【問合せ先】特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 事務局（大石、道村）
TEL & FAX：052-789-4586
E-mail：bio-npo2@y4.dion.ne.jp

☆ NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 平成28年度第3回セミナー
「農産物・食品の輸出促進のための諸対策」

生物系先端技術に関する研究開発成果等の理解を深めるため、最新の先進的研究・利用事例、研究開発を取りまく情勢等についてセミナーを開催する。本セミナーのテーマは、「農産物・食品の輸出促進のための諸対策」とし、企業・団体、大学、試験研究機関等の産学官の参加者が情報交流することにより、東海地域における農林水産・食品産業分野の研究開発とその実用化、輸出促進に資する。

【開催日時】平成28年12月13日（火）13：30～17：00

【開催場所】ウインクあいち（愛知県産業労働センター）12階 1202会議室
名古屋市中村区名駅4丁目4-38 Tel：052-571-6131

【演題・講師】

13：30～14：30

1) 「花き類輸出の現状と課題」

愛知県豊明花き流通協同組合代表理事 永田晶彦 氏

14：30～15：30

2) 「最新のCAコンテナ輸送による鮮度保持技術と青果物輸出の取組み事例」

株式会社MTI 取締役・営業グループ長 田村健次 氏

～休憩～

15：40～16：40

3) 「諸外国における残留農薬基準値と輸出用茶の生産対策」

農研機構 果樹茶業研究部門 茶病虫害ユニット長 佐藤安志 氏

【開催要領】 http://www.biotech-tokai.jp/acv/pdf/H28dai3kaisemi_kaisaiyouryou.pdf

【主催】NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会／農林水産省

【後援】農研機構 中央農業研究センター、（公社）農林水産・食品産業技術振興協会

【参集範囲】 NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会会員、農林水産・食品産業関連企業、農業団体、食品関係団体、大学・高校等教育機関、国立研究開発法人、独立行政法人、公的試験研究機関、行政機関、その他

【併催】 技術相談（1202 会議室）：16:40～17:00 予約制
相談対応：農林水産省産学連携支援コーディネーター

【情報交流会】 1206 会議室：17:00～18:30 参加費 2,500 円

【参加申込み】 上記の開催要領の URL に添付した参加申込書を印刷し、ご記入の上、下記の FAX、あるいはメールの宛て先にご送付ください。

Tel&Fax：052-789-4586 E-mail：bio-npo2@y4.dion.ne.jp

◆ 2 ◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等

☆「知の拠点あいち重点研究プロジェクト（1期）」成果普及セミナー
～残留農薬の「簡単・迅速・安価」な検査技術～

【開催日時】 平成28年12月1日（木） 13:30～16:00

【開催場所】 あいち産業科学技術総合センター食品工業技術センター
（名古屋市西区新福寺町2丁目1番1）

【開催案内】 http://www.aichi-inst.jp/shokuhin/news/up_docs/h281201_seminar_GCMS.pdf

【内容】

<講演1>（13:30～14:50）

「イムノクロマト法を用いた残留農薬検出技術」

豊橋技術科学大学大学院 環境・生命工学系 教授 岩佐 精二 氏

<講演2>（15:00～16:00）

「GC-MS用残留農薬微量マルチ定量パッケージ」

株式会社島津製作所 分析計測事業部 プロダクトマネージャー

宮川 治彦 氏

【申込み】 参加費無料、定員50名（先着順）

【問合せ先】 あいち産業科学技術総合センター 食品工業技術センター
（担当：市毛、丹羽）

TEL：052-325-8094 FAX：052-532-5791

◆ 3 ◆ 地域外でのセミナー・シンポ・会議等

☆アグリビジネス創出フェア 2016（東京ビッグサイト）

「アグリビジネス創出フェア 2016」は、全国の産学の機関が有する農林水産・食品分野などの最新の研究成果を展示やプレゼンテーションなどで紹介し、研究機関間や、研究機関と事業者との連携を促す場として開催する技術交流展示会です。

【開催期間】平成28年12月14日（水）～12月16日（金）

3日間とも午前10時開場、午後5時閉場

【会場】東京ビッグサイト 西4ホール（東京都江東区有明3-11-1）

【アグリビジネス創出フェア2016 ホームページ】<http://agribiz-fair.jp/teaser/>

【入場料】無料

【主催】農林水産省

.....

○農林水産省農林水産技術会議事務局では、農林水産関係の国立研究開発法人等の開催するイベントを紹介しています。イベントカレンダーのURLは下記の通りです。

<http://sto.affrc.go.jp/event/calender>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.jataff.jp/>

◆4◆ 平成28年度競争的研究資金等について

☆平成28年度補正予算 革新的技術開発・緊急展開事業のうち、戦略的技術開発体制形成事業（農林水産省）

<http://www.s.affrc.go.jp/kakushin/H28kakushin.htm>

分野等：研究ネットワーク形成事業

大学、研究機関、企業、農林漁業者等による研究ネットワークの形成に必要なとなる取組を支援する。

公募締切日：平成28年11月25日（第2回）、未定（第3回）

.....

☆平成28年度セルロースナノファイバー性能評価モデル事業

（早期社会実装に向けた導入実証）委託業務（二次公募）（環境省）

http://www.env.go.jp/earth/ondanka/biz_local/28_a37-2/index.html

分野等：セルロースナノファイバー活用材料で部品等を試作し、実機に搭載することで製品としての信頼性、CO2削減効果等の性能評価を実施するとともに、早期社会実装に向けた導入実証を行う。

公募期間：平成28年11月1日～25日

.....

☆「研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP）ステージ3：

NexTEP-A タイプ（平成28年度・第2回）」（JST）

<http://www.jst.go.jp/a-step/koubo/h28nextep-a-1.html>

分野等：企業ニーズを踏まえた、企業による大学等の研究成果に基づく研究シーズの実用化開発を支援する。

公募期間：平成28年7月29日～11月30日

.....

☆産学共同実用化開発事業 (NexTEP) 平成28年度一般タイプ (通常募集) (JST)

http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_ippan01.html

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成28年10月26日～平成29年3月31日

.....
☆産学共同実用化開発事業 (NexTEP) 平成28年度未来創造ベンチャータイプ (通常募集) (JST)

http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_mirai01.html

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発のうち、ベンチャー企業が行う、未来の産業創造に向けたインパクトの大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成28年10月26日～平成29年3月31日

.....
☆平成28年度中堅・中小企業への橋渡し研究開発促進事業 (平成28年度第2次補正予算) (NEDO)

http://www.nedo.go.jp/koubo/CA2_100127.html

分野等：中小企業等が橋渡し研究機関から技術シーズの移転を受けてビジネスにつなげることや、中小企業等が保有する技術を橋渡し研究機関の能力を活用して迅速かつ着実に実用化することを通じて、中小企業等が技術力向上や生産方法等の革新等を実現することを支援する。

公募期間：平成28年10月3日～12月1日

.....
☆平成28年度研究開発型ベンチャー支援事業 (企業間連携スタートアップに対する事業化支援) (NEDO)

http://www.nedo.go.jp/koubo/CA2_100126.html

分野等：事業会社と連携して技術開発を行う研究開発型ベンチャーを支援する。

公募期間：平成28年10月3日～11月24日

.....
☆ ICT イノベーション創出チャレンジプログラム (I-Challenge!) (総務省)

http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin03_02000167.html

分野等：情報通信審議会最終答申において、「2030年に求められるサービス像」を実現するために必要となる「国が取り組むべき技術開発分野と具体的プロジェクト」として、次の7つの具体的プロジェクトが例示されている。

- (1) いつでもどこでも快適ネットワーク技術
- (2) G空間高度利活用基盤技術 (Tokyo 3D Mapping)
- (3) 以心伝心ICTサービス基盤
- (4) フレンドリーICTサービス技術

- (5) 社会インフラ維持管理サービス技術
- (6) レジリエント向上ICTサービス技術
- (7) 車の自動走行支援基盤技術

本事業の公募対象となるのは、上記7つのプロジェクトをはじめ、幅広くICTそのものの技術や、農業、医療、交通、教育などの異分野とICTとの融合を図るなどにより、社会へ大きなインパクトをもたらす可能性を持つ、革新的な技術やアイデアを活用した新事業の創出を目指し、POC（Proof of Concept：概念検証）に取り組む技術開発課題。

公募期間：平成28年4月21日～（28年度中はいつでも応募可能）

.....
民間等研究資金

☆三井物産環境基金：「2016年度研究助成」

http://www.mitsui.com/jp/ja/csr/contribution/environment/fund/application/1220388_7661.html

分野等：地球環境問題の解決と持続可能な社会構築に貢献する研究で、下記対象分野に関わるもの。

<対象分野>

- 1. 地球環境
- 2. 資源循環
- 3. 生態系・共生社会
- 4. 人間と社会のつながり

公募期間：平成28年9月20日～11月12日

.....
☆公益財団法人長瀬科学技術振興財団：「平成29年度研究助成」

<http://www.nagase-f.or.jp/grant-2/>

分野等：有機化学及び生化学、並びに関連分野における研究

公募期間：平成28年9月11日～11月14日

.....
☆資生堂：「第10回資生堂女性研究者サイエンスグラント」

<http://www.shiseidogroup.jp/rd/doctor/grants/science/index.html>

分野等：自然科学分野（理工科学分野、生命科学分野）。界面・コロイド化学の応募を積極的に歓迎する。

公募締切日：平成28年11月15日

.....
☆天野エンザイム（株）：「第18回酵素応用シンポジウム研究奨励賞」

<http://www.amano-enzyme.co.jp/jp/company/kouso.html>

分野等：産業界に影響を与える可能性の高い「酵素の応用研究」、産業界での応用の可能性のある「基礎的な酵素研究」を行っている研究者

公募期間：平成28年10月3日～11月30日

.....

☆公益財団法人不二たん白質研究振興財団：「平成29年度研究助成（一般研究）」

<http://www.fujifoundation.or.jp/aid/assist01.html>

分野等：研究領域は、大豆たん白質および大豆関連成分に関する研究を対象とする。

研究分野は、以下の4分野とするが、各分野に跨る応募も歓迎する。

1. 遺伝・育種・成分・品質などに関する研究
2. 調理・風味・加工・物性などに関する研究
3. 栄養・健康、疾病予防・治療などに関する研究
4. 食文化、食行動などに関する研究

公募期間：平成28年10月1日～11月30日

.....

☆公益財団法人不二たん白質研究振興財団：「平成29年度研究助成（特定研究）」

<http://www.fujifoundation.or.jp/aid/assist02.html>

分野等：人における健康の維持や病気の予防等に期待される大豆たん白質および関連成分の基礎、応用あるいは生活への活用に関する領域の研究

公募期間：平成28年10月1日～11月30日

.....

☆公益財団法人不二たん白質研究振興財団：「平成29年度研究助成（若手研究者枠）」

<http://www.fujifoundation.or.jp/aid/assist03.html>

分野等：研究領域は、大豆たん白質および大豆関連成分に関する研究を対象とする。

研究分野は、以下の4分野とするが、各分野に跨る応募も歓迎する。

1. 遺伝・育種・成分・品質などに関する研究
2. 調理・風味・加工・物性などに関する研究
3. 栄養・健康、疾病予防・治療などに関する研究
4. 食文化、食行動などに関する研究

公募期間：平成28年10月1日～11月30日

.....

☆公益財団法人国際科学技術財団：「2017年研究助成」

http://www.japanprize.jp/subsidy_yoko.html

分野等：

1. 2017年（第33回）日本国際賞授賞対象分野
「エレクトロニクス、情報、通信」分野、「生命科学」分野
2. クリーン&サステイナブルエネルギー分野

公募期間：平成28年9月1日～11月30日

.....

☆公益財団法人池谷科学技術振興財団：「平成29年度助成金」

https://iketani-zaidan.or.jp/system/?page_id=05

分野等：先端材料及びこれに関連する科学技術

公募期間：平成28年10月1日～11月30日

.....

☆一般財団法人かき研究所：「平成29年度研究助成」

<http://www.kakiken.or.jp/html-2/jyosei.html>

分野等：かき（牡蛎）に関する研究

公募締切日：平成28年11月30日

☆公益財団法人河川財団：「平成29年度河川基金助成（研究者・研究機関部門）」

<http://www.kasen.or.jp/kikin/tabid290.html>

分野等：防災・減災や河川・流域の視点から、治水・利水・環境に関する新たな科学的知見を得る取り組みや新技術の開発に向けた調査・研究。

公募期間：平成28年10月1日～11月30日

☆公益財団法人新技術開発財団：「第26回（平成29年度）植物研究助成」

http://www.sgkz.or.jp/download/plant/download.html?sscl=ZD_top_now_plant

分野等：

1. 一般課題研究

（ア）「植物研究園（静岡県熱海市）を利活用し、工学的手法を用いた植物の生態研究」

（イ）「植物の生態研究に必要となる新計測技術の開発」

2. 特定課題研究

大規模震災等に触発された減災に向けての植物機能の利用による環境再生、省資源、植物多様性への保全・再生に関する研究

（ア）持続可能なみどりの回復・再生

（イ）植物生態系の改善・回復・保全

（ウ）植物を利用した省エネ・省資源対策

公募期間：平成28年11月10日～11月30日

☆公益財団法人昭和聖徳記念財団：「第26回（平成28年度）学術研究助成（奨励）」

http://www.f-showa.or.jp/2_jigyo/2_biology.html

分野等：系統分類に関する研究

公募締切日：平成28年12月10日

☆公益財団法人ソルト・サイエンス研究財団：「平成29年度研究助成」

<http://www.saltscience.or.jp/research.html>

分野等：

1. 一般公募研究

理工学、医学及び食品科学の3分野で塩に関する研究

2. プロジェクト研究

理工学分野「製塩プロセスで濃縮される未利用資源の高度回収技術の開発」

公募期間：平成28年11月1日～12月10日

☆公益財団法人エリザベス・アーノルド富士財団：「平成29年度学術研究助成」

<http://www.fujizaidan.or.jp/bosyuu.html>

分野等：

1. 米、麦等に関する研究
2. 米、麦等を原料とする食品の生産・加工・流通・生理的機能性等に関する研究
3. 米、麦等を原料とする食品製造における技術の向上発展に関する研究
4. 米、麦等を原料とする食品製造における機械の向上進歩に関する研究

公募期間：平成28年11月1日～12月14日

.....
☆日本中央競馬会：「平成29年度日本中央競馬会畜産振興事業」

<http://company.jra.jp/0000/chikusan/kobo/kobo.html>

分野等：畜産の振興による食料自給率の向上、多様な畜産経営の育成及び安全・安心な畜産物の供給を目的とし、畜産の現場への即時応用を前提とした技術の研究開発、調査研究及びこれらの成果を含む畜産経営に対する適切な情報提供等を行うものとする。具体的には、現状の課題を踏まえた必要性や緊急性、新技術の応用等の新規性、国等が実施している畜産関連施策の補完効果が高く、効果並びに目的と手段が明確な、次の各項目に掲げるものとする。

1. 自給飼料の生産・利用の促進
2. 担い手の確保（特定の地域における担い手の確保を含む）
3. 経営改善の助長・支援
4. 多様な形質の家畜改良と効率的な飼養管理技術の普及
5. 畜産物の生産・流通対策
6. 畜産に係る環境問題の対策
7. 家畜衛生の向上のための対策
8. その他畜産振興に資するもの

公募期間：平成28年10月24日～12月21日

.....
☆粉体工学情報センター：「2017年度（第13回）研究助成」

<http://www.icpt.jp/kenkyuu/index.html>

分野等：1. 食品粉体に関わる研究、2. 粉体単位操作に関わる基礎研究

公募期間：平成28年10月3日～12月26日

.....
☆公益財団法人水産無脊椎動物研究所：「2017年度個別研究助成・育成研究助成」

<http://www.rimi.or.jp/josei/JOSEINEW.html>

分野等：水産（水棲）無脊椎動物（昆虫類を除く）の形態・発生・生理・分類・系統・生態・行動などに関するフィールドでの生物学的な調査研究

公募期間：平成28年9月29日～12月31日

.....
☆一般社団法人Jミルク：「平成29年度『牛乳乳製品健康科学』学術研究」

http://m-alliance.j-milk.jp/koubo/2017/H29_kenko.html

分野等：

1. 特定研究：最近の社会的課題や研究ニーズに対応したテーマに関する研究

- (1) スポーツにおける牛乳乳製品の栄養的意義に関する研究
- (2) 牛乳乳製品が免疫機能に及ぼす影響に関する研究
- (3) 牛乳乳製品とメンタルヘルスに関する研究

2. 一般研究：当該研究領域に関連する幅広い視点や新規性のある研究

- (4) 各ライフステージにおける健康と牛乳乳製品

公募期間：平成28年10月1日～12月31日

.....
☆公益財団法人日本食品化学研究振興財団：「平成29年度研究等助成」

<http://www.ffcr.or.jp/>

分野等：

1. 一般研究助成

- (1) 食品添加物の安全性等に関する研究
- (2) 食品添加物の有用性、性能および使用技術等に関する研究
- (3) 食品添加物の品質、規格および製造方法等に関する研究
- (4) その他食品化学領域における調査・研究

2. 課題研究助成

- (1) 食品添加物の体内動態および生体に対する影響に関する研究
- (2) 食品添加物を利用した食品および食品素材の保存・安定性向上に関する研究
- (3) 各種精油、果汁、果実等の天然香料の基原動植物および食品に含まれるフレーバー成分の化学的研究
- (4) 高齢者・病者・障害者等のため食品添加物を利用した食品・食品成分補給方法の開発研究
- (5) 各国における食品添加物規制の実際と比較に関する調査、研究

公募期間：平成28年11月15日～平成29年1月15日

.....
☆公益社団法人新化学技術推進協会：「第6回新化学技術研究奨励賞」

http://www.jaci.or.jp/recruit/page_02_06_2017.html

分野等：

特別課題：災害時の安全・安心の確保、被害の軽減と災害からの復旧・復興に貢献する化学技術に関する研究

課題1：グリーン・イノベーションを推進するための資源・プロセス・評価技術に関する環境技術の研究

課題2：新しい資源代替材料・技術の創製、および資源の節約・回収・再利用に関する基盤的研究（エネルギー資源、食料・水資源を含むものとする）

課題3：バイオマスの構造を活かした高機能材料および化学品に関する研究

課題4：創電・エネルギー貯蔵分野における革新素材・技術に関する研究

課題5：エレクトロニクスの未来を支える新規材料・技術・プロセスに関する研究

課題6：マイクロナノシステム用途の拡大につながる新規な材料・プロセスおよびデバイス技術に関する研究

課題 7：高効率物質生産に必要な新規バイオプロセスの構築に関する研究

課題 8：生体分子を利用した、またはその構造と機能に着想した新規機能性材料
の実用化を目指した研究

課題 9：材料の設計・製造・解析・評価を先導する計算機を活用した研究

課題 10：日本のものづくり強化と新産業創出に資する「新素材」実現のための基
礎的・基盤的研究

課題 11：革新的触媒技術による次世代グリーンイノベーション創出に関する研究

公募期間：平成 28 年 1 月 1 4 日～平成 29 年 1 月 1 6 日

.....
☆公益信託伊藤徳三ひまし研究基金：「平成 29 年度研究助成金」

<http://www.smtb.jp/personal/entrustment/management/public/example/list.html>

分野等：ひま種子、ひまし油、ひまし油誘導体（リシノール酸、セバシン酸、ウンデシ
ン酸、2-オクタノール、12-ヒドロキシステアリン酸等）に関する次の研究を
対象とする。

1. ひまし油・ひまし油誘導体の精密化学変換に関する研究
2. ひまし油・ひまし油誘導体を利用する機能材料及び生物活性物質に関する研究
3. ひま種子の増産に資する育種及び栽培技術に関する研究
4. 上記 1～3 以外のひまし油関連産業の発展に資する基礎・応用研究

公募期間：平成 28 年 1 月 1 8 日～平成 29 年 1 月 2 0 日

.....
☆一般財団法人旗影会：「2017 年度研究助成」

<http://www.nakashima-foundation.org/kieikai/entry/index.html>

分野等：

<一般助成> 以下の分野に関する研究

1. 畜産（生産および加工）
2. 農産（生産および加工）
3. 食品工業（食品工学、食品化学、食品機能、食品衛生、調理科学など）

<特別助成>一般助成に示す分野のうち、タマゴに関する研究（タマゴの新規活用、
健康機能、衛生、調理科学、食文化など）

公募期間：平成 28 年 1 2 月上旬～平成 29 年 1 月 3 1 日

.....
☆公益財団法人山田科学振興財団：2017 年度研究援助」

http://www.yamadazaidan.jp/jigyo/bosyu_kenkyu.html

分野等：自然科学の基礎的研究

公募締切日：平成 29 年 2 月 2 4 日

.....
☆一般財団法人杉山報公会：「平成 29 年度研究助成金」

<http://www.sugiyama-houkoku.or.jp/joseib.html>

分野等：主として「健康な暮らしを支える産業に寄与することを目的とする研究」とし、
医薬、食品、健康、環境、衛生等の分野に結びつく研究領域とする。

公募期間：平成28年9月1日～平成29年3月31日

◆5◆新技術情報

☆農林水産・食品分野の新技術情報の紹介

○野菜関係：都市近郊野菜に光害が発生しない夜間照明技術の開発

国立大学法人山口大学を研究代表機関とする研究グループは、農食研究推進事業（実用技術開発ステージ）の成果として、夜間の街灯等の照明が農地を照らすと、農作物の減収や価値の喪失などの悪影響が生じることがあるので、光害を生じないような新たな照明技術を開発しました（農林水産省冊子・研究紹介2016参照）。すなわち、近郊野菜栽培で光害が発生するハウレンソウに光害を及ぼさない照明として青と黄緑色のLEDを組み合わせた擬似白色LEDを開発しました。これを使うと、ハウレンソウの可販株率は、一般的な白色LED照明では40%未満であるのに対し、80%と2倍となりました。また、エダマメでは、擬似白色LEDで15ルクスの照明をしても減収率は10%未満に抑えられたことから、夜間照明による減収等のリスクを軽減できることが分かりました。

夜間に暗い通学路など、これまで街灯を設置するのが難しかった場所にも安全確保のために設置することができそうです。

- ・株式会社アグリライト研究所 HP：http://www.agri-light-lab.co.jp/?page_id=22
- ・研究開発成果実装支援プログラム「農作物の光害を防止できる通学路照明の社会実装」実装支援プロジェクト終了報告書：
http://ristex.jst.go.jp/pdf/implementation/JST_1115131_10102745_yamamoto_ER.pdf
- ・岩崎電気株式会社 HP：<http://www.iwasaki.co.jp/NEWS/release/2014/lumiine.html>

○食品関係：ガスプラズマを用いた農産物の殺菌・消毒法の開発

琉球大学医学部を研究代表機関とする研究グループは、農食研究推進事業（シーズ創出ステージ）の成果として、プラズマ殺菌装置の開発について公表しました（農林水産省冊子・研究紹介2016）。我が国では、農産物の収穫後に有効に殺菌・消毒する方法がないのが実情です。本研究グループは、窒素等の不活性ガス中で発生させたガスプラズマで農産物を処理することによって安全かつ効率的に農産物の殺菌・消毒する方法を開発しました。具体的には、連続的に殺菌可能なプラズマ殺菌装置（ローラーコンベア型装置）、種子用装置も開発しました。細菌、カビ、ウイルスだけでなく、アフラトキシンB₁、志賀毒素も分解されます。本技術により、農薬を使用せずに、長期保存や長期輸送が可能になります。

- ・地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所 HP：
http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/files/00074520/h26_18gasplasma.pdf

- ・ 2014 国際工業食品展 HP (佐世保高専等公表) :

<http://www.foomajapan.jp/2014/academic/research/15.html>

○環境関係：生分解性プラスチック分解酵素と保湿剤併用による生分解性マルチフィルムの分解促進

農研機構・農業環境変動研究センターの平成27年度の研究成果情報として、畑のマルチに使う生分解性プラスチックの畑での分解促進には、生分解性プラスチック分解酵素と保湿剤を併用すると良いことを公表しました。マルチに使用するビニール等のプラスチック類は、使用済みのものは産廃処理する必要があり、作付け終了後における回収の手間や産廃処理経費を要します。生分解性プラスチックのマルチの場合には、作付け終了後にトラクターなどで畑にすき込むことができます。しかし、分解が不十分ですとすき込みにくいので、プラスチック分解酵素液と保湿剤を事前に処理すると、すき込みやすくなります。なお、分解液等は現在、開発中です。

- ・ 農研機構・農業環境変動研究センター HP：研究成果情報

http://www.niaes.affrc.go.jp/sinfo/result/result32/result32_46.pdf

- ・ 生分解性プラスチックを分解する酵素の大量生産に成功 (旧農業環境技術研究所 HP)

<http://www.niaes.affrc.go.jp/techdoc/press/111125/press111125.html>

編集後記

昨日、米国大統領選挙の大勢が判明しましたが、米国内での直前の世論調査の結果に反してトランプ候補が当選し、世界が予想外の結果に戸惑っています。英国の EU 離脱の国民投票において離脱派が勝利するなど、既成概念が通用しない不確実・不透明な世界へと移行しつつあるのではないかと思います。新大統領の下での米国の外交、通商政策、安全保障がどのように変化するのか、日本がどのように対応すべきか、日本の安全と安定を確保するのに緊張を要する時代になりました。TPP 協定の発効がしばらく遠のくと思われませんが、企業経営にとっても、不透明な時代にあって、多面的なリスク評価とリスク管理がますます重要となっていると思われま

ところで、最近読んだ本に、勝川俊雄著「魚が食べられなくなる日」小学館新書 (2016年8月出版) があります。著者は、東京海洋大学の産学・地域連携推進機構准教授として、研究の傍ら、日本の漁業を持続可能な産業に再生するための活動を積極的に行っています。日本は領海と排他的経済水域 (EEZ) を合わせると世界6位の広大な海を有していますが、漁業資源管理がうまくできていないために、漁獲量の減少 (ピーク時の約6割)、漁業従事者の減少・新規参入者が少ないなど衰退傾向が続いています。一方、世界的には漁業は成長産業として有望視され、世界銀行の調査による2030年見通しで、殆どの国・地域で漁業生産の増大が見込まれる中で、日本のみがマイナスとなっているショッキングな図が示されています。ノルウェーなど多くの国で、漁業枠を個別生産者 (法人) に割り当て、厳しく違反を取り締まるなど厳重な資源管理を行い、資源の回復に成功しているのに対し、

日本では、極く一部の魚種を除き、漁業資源が減少傾向にあります。著者は、日本でも諸外国を見習って、個別生産者（法人）に数量枠を割り当てること、その枠も資源回復が可能な範囲の数量にとどめること（日本では過大な全体枠（魚種毎）が設定され、早い者勝ちで漁獲する方式なので資源再生ができない）、水産庁が専門家の意見をあまり反映させずに全体枠を設定しているので改めるべきことなど、漁業資源再生への考え方が論理的かつ明確に述べられているので、読者はその内容に納得するのではないかと思います。本書を読んで、かつて、乱獲して資源が枯渇してしまったニシンのようにではなく、資源が回復するまで漁を控えて再生させたハタハタでの経験のように、的確な漁業政策によって日本の広大な領海・EEZ の海に豊かな漁業資源を再生させることが可能なのではないかと思われました。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 松井・道村

TEL&FAX : 0 5 2 - 7 8 9 - 4 5 8 6

E-mail : bio-tech.co*go8.enjoy.ne.jp *を@に書き換えてください

URL <http://www.biotech-tokai.jp/>